

には、リンクがあります。は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

事業所名 グループホーム **こすもすの家**

日付 平成16年9月10日

評価機関名 有限会社
アウルメディカルサービス

評価調査員 薬剤師・介護支援専門員

痴呆介護経験8年、障害者、老人介護支援

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

講評 全体を通して(特に良いと思われる点など)

自然豊かな県北の町の中心部。ホームの目の前30m先には中学校の正門が見える。登下校の子供たちの、元気な声が毎日聞こえる。子供たちは、ボランティアとしても訪問してくれる。

和風の造りの平屋建て。木材がふんだんに使われ、温かみを感じられる。玄関は引き戸。廊下は少し明かりを落とし、壁には絵画がかけられ落ち着いた雰囲気をかもし出す。

居間に面した畳の間は入居者の憩いの場となっている。居間から外に出るとホームに面して、広い畑がある。入居者は自由に使える。

各居室のドアには指詰めをしないよう、閉まる直前で止まる工夫がある。また、ひざの負担を減らすように居室の床は廊下よりも少しやわらかくなっている。

職員は全員、介護福祉士やホームヘルパーなどの資格を持ち、よく訓練されている。終末期にも対応する覚悟と体制が出来ている。申し送り等、情報の共有化もうまく機能して、対応は安心できる。

また、併設のデイサービスでは、入居者と地域の人々がみんなで歌や踊りを楽しむなど、ふれあいの場としての役割も果たしている。入居者が安心して、落ち着いた暮らしを送ることが出来るホームとして高く評価したい。

改善の余地があると思われる点
なし

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<p>記述項目 グループホームとしてめざしているものは何か 「心豊かに、自分らしく輝いて、穏やかに齢を重ねていける。」そのような生活をサポートすることを基本に、心のケアを大切に考えている。玄関は、自由に出入りできるが、見守りがしっかり出来ており、地域との協力も良好なので危なげない。 毎月1回は行事を企画し、ホーム内に閉じこもらないように、どんだん外に出て行こうとされている。買い物や湯郷温泉などにも出掛けている。</p>			

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
<p>記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 心のケアを大切にしたい。普段から入居者に寄り添う姿勢を第一にしている。開所以来スタッフはほとんど変わっていない。 入居者は職員の名前は覚えられずとも、なじみの関係が築かれており、心の拠りどころとなっている。 職員もゆったりと構え、管理者の考えも職員に伝わり、見守りは自然な形で行われている。</p>			

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<p>記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 入居者一人ひとりの生活歴、性格などを職員はよく把握していて、声かけにも工夫が見られる。 居室は、入居者が鍵をかけられるようになっている。何かあれば開けてでも対応するが、通常は外からさりげない見守りをする。</p>			

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<p>記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 月に1度のミーティングで、サービスの質の向上について意見交換をしている。 帰宅願望の見られる入居者には、見守りをしっかりと行い、よく話を聴いている。それでも落ち着かないときは、ご家族に協力をお願いしている。日ごろからご家族との信頼関係を大切にと考えている。</p>			